



入学おめでとうございます。優しく心地よい春風が新入生を優しく迎えてくれているようです。

**大嶺の吾妻のふもとから
～2024 校長室だより～
Vol.1 4月7日**

この春に着任しました。そしてこのたび令和6年度の入学式を挙行いたしました。187 名の新入生諸君とともに、伝統を受け継ぎ、新たな歴史を築いていく決意を新たにしました。

「校長室だより」として、不定期ですがメッセージを発信していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

第1号は、入学式の式辞をご紹介します。

校長式辞（一部略）

吹く風も日増しに和らぎ、暖かな春の訪れを感じる季節となりました。

ただ今、入学を許可した 187 名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。勉学や部活動など中学校時代の頑張りや、入学に至るまでの努力を称えるとともに、教職員一同、皆さんの入学を心から歓迎いたします。

保護者の皆様におかれましては、本日は誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。教職員一同、安心して信頼される、魅力ある学校づくりに努めてまいります。どうか本校の教育活動に対しまして、ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。そして、今日から始まる興譲館生としての、新たな学びやチャレンジを、引き続き見守り支えてくださいますよう、お願い申し上げます。

「興譲館」という校名は、米沢藩中興の祖である上杉鷹山公の、生涯の師であった「細井平州」先生が、中国の古典である『大学』という書物の一節から取られ、命名されたものです。「一家譲（じょう）なれば一国譲（じょう）に興る」、すなわち、「一人一人が思いやりや慈しみの心をもてば、一人一人が謙虚な気持ちになり、一家が齊（ひと）のとって（調和がとれ）、国が治まり天下が平和になる」との意味で、本校の建学の精神である「謙譲の心」を言い表したものといたします。これは、今でも、「自他の生命を尊重し、己を磨き、誠を持って世のために尽くす」「興譲の精神」として受け継がれており、本校が掲げる教育目標にも教育精神として示されているものです。

- ・自分そして他者のいのちを大切にすること、
- ・自分を磨き、誠意を持って物事に当たること
- ・社会のために力になること

皆さんには、この3つの理念を心に留め、多くの先人・先輩が築いてきた伝統を引き継いでいくとともに、新しい時代を切り開いていくための力を身に付けてほしいと願っています。

そのために、皆さんに望むことがあります。それは、生涯にわたって学び続けることができる力、いわば「学ぶ力」を身につけてほしいということです。グローバル化がますます進展していく中で、温暖化の進行や感染症の流行、国際社会の不安定化や地殻変動が進んでいます。また、AIやロボットなどの技術革新がこれまでにないスピードで進展しています。我が国では、社会構造の変化の中で新しい価値を生み出すのは「人」、これからは人と違う特性や興味を持っていることが新しい価値の創造やイノベーションの源であり、教育現場においても「創造性」あふれる社会に向けた学びへの転換が必要、とされています。

これらを踏まえれば、高校での学びはこれからの社会を生き抜くための学びの入り口に過ぎず、答えのない課題に向き合ったときに、探究し道を切り開いていく基礎を身につける学びでなければなりません。興譲館高校への入学は皆さんにとってのゴールではなく、これからの時代を生き抜くための学びの始まりです。そして本校は「教えられるのを待つ学びの場」ではありません。

本県の高校教育をリードしている「探求型学習」や、文部科学省から指定を受けている「スーパーサイエンスハイスクール」事業では、皆さんの志に応え、可能性を見出し、開花させる、様々な学びの場を用意しています。自分の力で考え、主体的に、そして、仲間とともに、協働的に課題の解決に取り組む先輩たちの姿がそこにあります。これは、学校の授業に向かう基本的な姿勢であることはもちろん、生徒会活動や学校行事、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動など、あらゆる場がそれに通じています。皆さんには多様な学びを通して、探究する力、学び続ける力を身につけてほしいと思っています。

今日から高校生活が始まります。期待と不安で胸がいっぱいではないかと思いますが、ともに励まし合い、悩みを打ち明け合える仲間や、教師との出会いが、この学校には待っています。大きな夢と希望をもって、前を向いて、新たな学びに、そして勉強以外の活動にも取り組んでください。

新入生の皆さんにとって、この学び舎での3年間の、充実した高校生活になることを心から願い、式辞といたします。

令和6年4月7日

山形県立米沢興譲館高等学校

校長 吉田 直史